

◀クラウドファンディングの種類と特徴▶

	寄付型	購入型	貸付型	ファンド型	株式型
仕組み	インターネットのウェブサイト上で寄付を募り、寄付者（資金提供者）には資金の活用状況等を記載したニュースレター等が送付される。寄付者には対価はない。	プロジェクト・イベント等にパトロンのような形で出資者を募る仕組み。出資した資金は返還されないが、出資者は金額に応じたサービス・商品等を得ることができる。	ソーシャルレンディングとも呼ばれる。企業や個人に小額の資金を集めて貸付けを行う仕組み。事業の内容や個人の特性は出資者には見えず、信用度や内容、担保の状況により分類されたグループへの貸付となる。	特定の事業に対して出資者を募る仕組み。出資者はあらかじめ定められたスキームに従い、売上等の成果に応じた配当を受け取る。期間中に商品や生産物、サービスを受取るものもある。	事業を行う会社の非上場株式に対して出資者を募る仕組み。出資者は業績に応じた配当を受け取る可能性がある。出資金の回収は株式の売却による。投資できる金額は一社に対し年間50万円まで。株式発行企業は、株式型クラウドファンディングを通じた資金調達額は、年間1億円未満まで。
代表的なサービス	JAPAN GIVING、GoodMorning、Readyfor Charity など	Readyfor、Makuake、CAMPFIRE、Kibidango など	マネオ、クラウドバンク、SBIソーシャルレンディング、OwnersBook など	セキュリテ、開花(KAIKA)、Sony Bank GATE など	FUNDINNO、GoAngel、エメダ・エクイティ、GEMSEE Equity など
出資者	多くの寄付案件を比較しながら自分の意向に沿った寄付対象を見つけることができる。決済機能が付随している場合には、手軽に寄付できるほか、自動的に定期的に寄付を継続できるサービスを提供する運営会社もある。	自分が共感できるプロジェクトに初期から参加し手い一体感を持つことができる。サービスや成果物を通常はいち早く手にすることができる。また、他では手に入られない無形の価値を手にする場合もある。	一般の預金や国債よりも高利回りの運用が期待できる。他の金融型に比べ期間が短いものが多い。	貸付型と異なり、個別のプロジェクトを自分で吟味しながら投資できる。事業の進捗にしがって配当を受けるため事業との一体感がある。配当とは別に商品やサービスを受取るケースも多い。	従来は投資が難しかった小額での非上場株式への投資が容易になる。売上高や利益に応じた配当を受け取ることができ、将来的に株式売却によるキャピタルゲインを狙うこともできる。株主として会社の運営に対し発言権がある。
	そもそも寄付行為であるため、リスクは無いとも言えるが、運営会社や寄付金を集めている主体が詐欺的に資金を集めていた場合には寄付金が不正流用され自分の寄付行為が無意味なものとなるリスクがある。	製品・サービスが完成しなかったり、完成しても期待通りのクオリティではなかったり、提供時期が大幅に遅延するなどのリスクがある。	調達者の事業の不調以外に匿名組合を組成する取扱業者の倒産による貸倒リスクも負う。ファンド形式のため個別の調達者の実情が把握できない。海外案件では為替リスクや高額の為替手数料が発生する可能性がある。	事業の不調、当該事業以外の理由での調達者の倒産等による元本割れリスクがある。原則として事業の運営方法には関与できない。営業者には元本返済の義務がないためにモラルハザードが生じる恐れがある。	事業の不調、調達者の倒産等によるキャピタルロスの恐れがある。非上場株式であるために流動性が低く、返済期日もないため換金が難しい。
調達者	ネットを利用することにより不特定多数の個人や団体から幅広く募金を募ることができる。資金の返済の必要がない。	資金を返済する必要がない。自分のアイデアが、市場に受け入れられるかというテストマーケティングができ、最初から売り先と採算を確保した上で、商品開発やサービス」の開発を行うことができる。	銀行から融資を受けにくい創業者や中小企業でも資金調達のチャンスがあり、銀行が取り組みにくい案件でも資金調達のチャンスがある。	事業単位の調達であり、事業の成果に応じた出資金の配当を行う仕組みのため事業リスクをある程度分散できる。	資本金の形での資金調達なので基本的に返還しなくてよい。自己資本の充実を図れる。
	なし	期日までに資金が集まらず事業ができないリスク、事業などのアイデアの流出リスク。	期日までに資金が集まらないリスク。返済不能となった場合、第三者に債権を売却されるリスク。	期日までに資金が集まらずに事業ができないリスク。事業のアイデアなどの流出リスク。	期日までに資金が集まらずに事業ができないリスクを負う。顔の見えない小口株主が増えることによる管理コストの発生と事業運営上のリスク。

※価格.comのサイトを参考に編集しました。
<https://kakaku.com/crowdfunding/>